

平成21年度水産研究所試験研究課題一覧

試験研究の基本的推進方向		研究課題名	内容	研究期間	担当
研究目標	研究項目				
農林水産物のブランド力強化	新品種・新作目・新栽培法の開発	海域特性にマッチした高品質ワカメ品種の確立	漁場環境及び地域の利用目的に合った優良品種の選抜をおこない、鳴門ワカメのブランド力を高める。	H19～H21	環境増養殖担当
	安定生産、高品質化のための技術開発	徳島県産ハモの販売促進を図るための、差別化及び品質向上技術開発	本県のブランド品目であるハモの生産量は、全国トップクラスであり、ブランド化が進められている。徳島産ハモが量だけでなく品質においても市場で高い評価を受けるように、漁獲後の船上での取り扱い方法を改善することにより徳島産ハモの販売促進を強気にバックアップする。	H20～H22	海洋生産技術担当
		包括的資源回復計画(紀伊水道小型底びき網漁業)作成推進調査	平成19年度に計画策定された徳島県小型底曳網漁業包括的資源回復計画に関して、その実施に必要な資料収集・解析およびその効果のモニタリングをおこなう。	H17～H21	海洋生産技術担当
	省力・低コスト生産技術の開発	ナマコ増殖システムの開発	ナマコ資源の維持培養を図るためには、幼生や稚ナマコの生残を高めることが必要である。天然礁及び人工投石礁を稚ナマコの育成場とし、その周辺に人工的な付着基盤(コレクター)を設置し、幼生を集めて落とし、その生残を高める技術を開発する。	H21～H22	環境増養殖担当
ノリ育苗技術開発試験		本県の現在の漁場環境に合った育苗管理技術を開発するとともに、陸上育苗技術の開発を行い種網確保の一助とする。	H19～H21	環境増養殖担当	
安全・安心な農林水産物の供給	家畜や養殖魚等の感染症と疾病防除技術の開発	成長が良く病気に強い養殖用アユ種苗の開発	本県のアユ養殖は、二期作生産を行う経営体が多く、成長を重視する一方で、感染症の発病による生産性の低下を招いている。そこで、現在、県栽培漁業センターが生産している成長の早い種苗に耐病性の高い形質を導入することにより、成長が良く病気に強い養殖用アユ種苗を生産する技術を開発する。	H21～H23	海洋生産技術担当
		アユ人工種苗の健苗性評価試験	継代の少ないアユ種苗(F2、F3およびF4)に標識を付けて河川に放流し、河川における冷水病に対する耐病性の有効性と放流効果を調査することで、放流種苗としての特性(健苗性)を明らかにする。	H19～H21	環境増養殖担当
次世代の農林水産業の展開	LEDを農林水産分野に応用する技術の開発	タチウオ曳縄へのLED集魚灯の導入	タチウオ曳き縄漁業は、徳島県の紀伊水道及び海部沿岸で営まれ、従事者が非常に多い重要な沿岸漁業である。LED集魚灯を用いたより収益性の高い効率的な曳き縄漁業の実現のためのマニュアルを作り、漁業現場への導入を目指す。	H20～H21	海洋生産技術担当
	IT・バイオテクノロジーを利用した技術の開発	資源管理に必要な情報提供事業	新漁業管理体制下での適切な操業支援、調査体制の一層の整備を目的に、沿岸域における漁業状況情報の収集・分析・提供を行うとともに地域レベルでの漁業状況情報の提供を行う。	H9～H21	海洋生産技術担当
		燃料経費削減のためのシラス魚群マップ即日配信システムの開発	漁業調査船に搭載された計量魚探の2周波を用いてシラスの魚群量を定量し、水温等海況情報と重ねて海図上に表示の上、即日配信するシステムを構築する。これにより、船曳網漁業者の漁場探索経費が節減され、損益分岐を考慮した出漁判断に貢献する。	H19～H21	海洋生産技術担当
		資源評価調査	ABC(生物学的許容漁獲量)の決定と対象資源の管理状況把握を目的として、県内主要漁協における漁獲量やそのサイズを把握する。	H10～	海洋生産技術担当

試験研究の基本的推進方向		研究課題名	内容	研究期間	担当
研究目標	研究項目				
次世代の農林水産業の展開	IT・バイオテクノロジーを利用した技術の開発	紀伊水道機船船びき網漁業の資源管理に関する情報提供事業	カタクチワシシラスの漁況予測に関するデータの収集及び解析、漁場形成状況把握のための餌料生物調査や計量魚探による音響調査を実施する。	H17～H21	海洋生産技術担当
自然環境の保全と地球温暖化対策	環境保全と適切な管理のための技術開発	小型封入容器による省力・低コスト型アマモ場造成技術の開発	公共事業から市民活動まで幅広く活用できる省力・低コスト型アマモ場造成技術を開発することを目的として、封入容器の開発を中心とした播種技術の開発およびその効果の検証をおこなう。	H19～H23	環境増養殖担当
		播磨灘南部地区磯焼け対策緊急整備事業	播磨灘南部地区に造成される藻場を対象に、食害対策や浮泥対策、種苗供給等をおこない、効率的なガラモ・カジメ場の造成と新たに創出された造成藻場を良好に維持するためのメンテナンス及びそのモニタリングをおこなう。	H19～H23	環境増養殖担当
		有害・有毒プランクトンの被害防止対策(赤潮発生監視調査、赤潮発生予察調査、貝毒発生監視調査)	有害・有毒プランクトンの発生状況調査を行い、その結果を基に関係機関と連携した有害・有毒プランクトンによる被害防止を図る。	S54～	環境増養殖担当
		海部郡沿岸海藻植生調査	海部沿岸の海藻植生の変化を調査し、藻場の現状と変遷を把握することにより、磯焼けの原因究明と藻場造成に役立つ。	H11～H21	環境増養殖担当
		海部地区藻場造成調査	海部地区での藻場造成(公共事業)の計画策定のため、当該地区での藻場の造成適地や造成手法の検討、効果算定の基礎データを作成する。	H19～H21	環境増養殖担当
		貝類及び藻類増殖付加機能ブロック効果検証調査	伊島漁港南沖防波堤で使用される貝類、藻類の増殖機能を付加した消波ブロックの磯根資源に対する増殖効果を検証する。	H20～H21	環境増養殖担当
		底生生物群集の資源生態把握調査	小型底曳網等の標本船調査および主要漁協の漁獲統計調査を実施し、過去の情報とともにデータベース化することにより、紀伊水道域の生物群集の動態を解析する。	H13～	海洋生産技術担当
		カワバタモロコ種苗生産試験	絶滅危惧種であるカワバタモロコの保護および増殖を目的として、本種の種苗生産を実施する。	H19～H24	環境増養殖担当
		環境変動を考慮した生産技術体系の確立	小型クラゲ被害防止対策技術開発	小型クラゲ対策漁具を作成し、操業試験を行う。また、周辺府県と連絡体制を整備し、クラゲに関する情報を蓄積し解析することによって来遊予測技術を確立する。	H20～H22
	養殖漁場環境調査		養殖漁場における水質及び底質の推移を把握し、その結果を基に適正な漁場利用を促進する。	S54～	環境増養殖担当